第 6 巻概要

本叢書第 6 巻では、昭和 34(1959)～41 年(1966)、武藤絲治の社長時代の終盤の株主総会の様子を取り上げている。特に重要なのは、武藤絲治を一躍有名にした、「グレーター・カネボウ計画」の実行の様子が詳細に記述されている点にある。この「グレーター・カネボウ計画」とは、「原料から最終製品までの一貫生産体制」、「販売網の拡充強化」、「非繊維部門の化粧品、食品への進出」の三本の柱による事業の構造改革を目指すものである。当時多くの競合企業は、紡績業で生き残るために「選択と集中」という時代の流れに沿って生き残ろうとした。鐘紡はそれに逆行するようなことを行ったことになる。さらに労使関係についていえば、武藤絲治は労働組合と「労使の平和共同宣言」を締結し、従業員と会社との結びつきを強化させている。この「労使の平和共同宣言」とは、鐘紡の存立の発展と源泉は従業員であるという、武藤山治の人間尊重の経営哲学を継承したものである。しかし、鐘紡はその哲学に反するように、「工場の売り食い」や「社中一体」を利用して経営を続けて行くが、やがて大きな経常損失を計上することになる。

この時期の日本の繊維産業には、合繊という技術が新たに導入され、参入各社は、新たな設備投資や外国企業との合弁、技術提携などに奔走することになる。鐘紡においては、食品、化粧品といった非繊維分野を含めて多角化を進めるグレーター・カネボウ計画の策定という武藤絲治の施策が功を奏した様子が読み取れる内容となっている。その後、鐘紡は、繊維、住宅、食品、化粧品、医薬品の 5 事業体制であるペンタゴン経営を築き、多角化を推し進めることになる。こうして、鐘紡の多角化を推し進めた武藤絲治は、本叢書で描かれた 2 年後の 1968 年、伊東淳二が 45 歳という若さで鐘紡の社長に就任した。本叢書第 6 巻は、武藤絲治がいかにしてグレーター・カネボウ計画を推進したのか、そしてそれがその後の鐘紡の経営にどのような影響を与えたのかを考察するのに重要な資料となっているのである。

ISSN 1345-8620
ISSN 2185-503X

Research Institute for
Economics and Business Administration
Kobe University

研究叢書 83

鐘紡資料叢書

株主総会編

第 6 巻

神戸大学経済経営研究所

伊藤　宗彦・國本　光正・加島　美和　編

第6巻　目次

昭和三十四年十二月二十三日
鐘淵紡績株式会社第二十七回定時株主総会議事速記録 …1

昭和三十五年六月二十三日
鐘淵紡績株式会社第二十八回定時株主総会速記録 …23

昭和三十五年十二月二十三日
鐘淵紡績株式会社第二十九回定時株主総会議事速記録 …41

昭和三十六年六月二十三日
鐘淵紡績株式会社第三十回定時株主総会議事速記録 …59

昭和三十六年十二月二十二日
鐘渕紡績株式会社第三十一回定時株主総会議事速記録 … 81
昭和三十七年六月二十三日
鐘渕紡績株式会社第三十二回定時株主総会議事速記録 … 107
昭和三十七年十二月二十一日
鐘淵紡績株式会社第三十三回定時株主総会議事速記録 … 127
鐘淵紡績株式会社第三十四回定時株主総会会議録
昭和三十八年六月二十一日 … 145
昭和三十八年十二月二十日
鐘淵紡績株式会社第三十五回定時株主総会議事速記録 … 163
昭和三十九年三月二日
鐘淵紡績株式会社臨時株主総会議事速記録 … 189

昭和三十九年六月二十四日
鐘淵紡績株式会社第三十六回定時株主総会議事速記録 …199
昭和三十九年十二月二十二日
鐘淵紡績株式会社第三十七回定時株主総会議事速記録 …221
昭和四十年六月二十三日
鐘淵紡績株式会社第三十八回定時株主総会議事速記録 …245
鐘淵紡績株式会社第四十回定時株主総会会議録
昭和四十一年六月二十三日 …267